

IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第36回会合 発言録

2023年7月18日

【加藤】 それじゃあ、定刻になりましたので、第36回の活発化チームの会議を始めたいと思います。

今日のアジェンダをもう一度見せていただけますでしょうか。下のほうにスクロールしていただけますか。

まず、いつも総務省の方から、現在の京都の準備状況とか、いろいろな御連絡をいただくことがあればということなのですが、望月様しか今お見受けしていないんですが、何か情報をいただくことはございますでしょうか。

【望月】 望月のほかに、あと田畑も入っております。

【加藤】 あ、そうですか。

【望月】 私のほうから、IDを確認しましょうか。

【加藤】 ありがとうございます。よろしくお願いします。

【望月】 Shinya TahataというこのアルファベットのIDが、田畑となります。追って、西潟も入ります。我々の方から、今、特段の御報告はございません。

【加藤】 田畑様は、データ通信課ですよ。

【望月】 はい。

【加藤】 特に御報告いただくことはないですか。

【望月】 はい。

【加藤】 その後の準備状況とか、前回もガラディナーがどのようになるかとか、その辺のお話があったんですが、まだ……。

【望月】 日程は、すみません、私のほうで新たに把握しているものはございません。

【加藤】 分かりました。それじゃあ、もし、西潟さんが後で入られたら、もう少しお分かりになるという可能性もありますか。というか、データ課ではあまり……。

【望月】　　そうですね、そういった情報は、岡崎や西浦のほうからということになるかと思っています。

【加藤】　　分かりました。じゃあ、岡崎さんがお出になるのをお待ちするということで、それじゃ、次の、今日、重要な議題だと思いますが、IGFのMAGからの報告ということで、河内さん、お名前を拝見しましたので、よろしければよろしく願います。先週の状況を皆さんお待ちになっていると思いますので、よろしく願います。

【河内】　　先週、ジュネーブに行ってきました。ワークショップは、前から御報告していると思いますが、約400件の中から80件を選ぶということで、終わっていないグループとかも幾つかあって、現地で一生懸命、会議の合間の時間とかお昼休みの時間とかに、何か集まってやっているところとかもありました。最終的に約80件強じゃないかと思うんですけど、選んで、それはそれでコンクルードし、決定しています。

一応私は、最終的な結果、どれが選ばれたというもののリストは持っていますけれども、まだ公表は。さっきもIGFのページを見ましたけど、まだ載っていないですよ。それで、会議で言っていたのは、結局、400件もある中から80件に絞らなければいけない、5分の1ですよ。点数も、点数づけのランキングとかの表も事務局が全部計算してくれて、作ってくれて、MAGのメンバーに配られて、その上でみんながその内容も検討した上で決めたんですけども、そんなに大きな差があるわけじゃなくて、本当に線引きするしかないという感じですよ、僅かなゼロコンマ幾つかの差で。

それで、今回、残ったところ、通ったところはいいですけど、駄目だったところに対する返事の仕方を、要するにあなたたちのプロポーザルが悪かったわけじゃなくて、単純に枠に入れなかったただだからみたいな、その書き方を工夫して、駄目だったところに返信してほしいみたいなことを、MAGから事務局に一生懸命提案をしていました。なので、何かその書き方とかがまだ簡単に書けずに、それでちょっと時間かかっているのかなという感じはしないでもないです。

でも、多分、今年、本番が10月と早いので、できるだけ早く連絡しないと、皆さん、旅行の手配とかもできなくなるので、できるだけ早く連絡をしたいというふうに事務局は言っていました。なので、恐らく少なくとも今週中には来るとは思うんですけども、まだ今の時点では公表されていません。

それと、あとは、それ以外にやった大きなところは、MAG側が企画したり、責任を持ってやるメインセッションですね。メインセッションの枠が5つしか取れなくて、だけど、今年のサブテーマって7つあって、そのうち.....。

【加藤】 いや、8つじゃなかったですか。

【河内】 8つですか。すみません。8つで、そのうち、いろいろさんざん議論した挙げ句に6つまで絞ったんですけど、どうしても6つから5つにできなくて、みんながさんざん、あれこれあれこれ延々と何時間もいろいろ言っていましたけど、結局それは決着できずに時間切れで、恐らく事務局が検討した上で、ホスト国と相談してどうするか……。枠を6つに増やすのは多分難しいと思うので、どれかをくっつけるとかということを考えるのかなという感じはしますけれども、取りあえずそれは結局決着せずに、要検討の継続で終わっています。

あとは、最後の日に、リーダーシップパネルのメンバーの方々との意見交換会が2時間ぐらいあったんですけど、前回、3月のときにウィーンに来ていたヴィント・サーフと、それから、ちょっと名前がすぐ出てこないんですけど、女性の方(Maria Ressa氏)がメインで意見交換……、意見交換というよりは、皆さん、MAGのメンバーと、それからリーダーシップパネルの方が、それぞれ自分の思うことを言ったという感じで終わる。まとめるとか、そこまで行かずに、時間切れで終わりましたけれども、ただ、MAGのメンバーもそうですし、皆さんも、京都に行くかと聞くと、ほとんど全ての人が行くと言っていたので、そこら辺は、やっぱり京都に対する期待はみんな大きいみたいな感じでした。

ただ、ホテルも、ホテル取ったかどうか、何人かに聞いたんですけど、まだ取っていないとかと言って、もちろん宝ヶ池プリンスなんてもう全然ブロックされちゃっているし、取れないから、どこか探すしかないよねとかという話をしていて、真ん中の烏丸通りの下を通っている地下鉄の駅に近いところが便利だと思うよと言っておきましたけれども、結構参加者は多いんじゃないかなというイメージ……、イメージに過ぎないのでちょっと分からないですけど。なので、私はできるだけ早くホテルを取ったほうがいいよとみんなに言ってきましたが、観光地ということもありますし、10月だとまだ紅葉には早いとは思いますが、今、観光客がどっと外国から、そうじゃなくても来ているので、日本の皆さんにも、ホテルの手配とかは早めにしたほうがいいかなと言ってあげたほうがいいかなと思いました。

そんなんでMAGの報告になりました。そんな感じです。

【加藤】 ありがとうございます。河内さん、お疲れさまでした。

皆さん、御質問とか何かございませんか。いかがでしょうか。

【河内】 会議には、飯田さんと、それから一緒に河合さんだったかな、来られていまして、飯田さんは1日遅れて火曜日からですね。月曜日は河合さんがいらっしゃっていて、今できたばかり

りのホームページ、まだコンテンツがあまり充実していませんけど、と言いながら、こういうページも作りましたという話はされていました。

【加藤】 ありがとうございます。

いかがですか。御質問、特にないですか。

じゃあ、私から一、二点よろしいですか。

【河内】 はい、どうぞ。

【加藤】 1つは、ワークショップが80件ぐらいになったということですがけれども、その中で過去、数が多過ぎてワークショップが入り切らない場合に時々やったのは、似たような提案を2つ、無理やり2つのプロポーザルをくっつけると。あなたたちでパネリストを増やすか何かでやってくれよというサジェスションをしたこともあるんですけど、今回はもうそういうことなしに、この80件強で決まりということなんですね。

【河内】 そうですね、80件も要するにテーマごとに分かれて、要するに8つに分かれているので、それぞれ、もともとの応募が多かったものは10件強ですね、13件とか14件とかで、少なかったものは、もう5件とか6件とかしか選ばれていないテーマもあるんですね。そこにくっつけて、結構……。今年の私の担当のグループでは、そういうことはあまりやらなかったんですけども、去年のグループでは似たようなのがあって、これとこれをくっつけたらどうだろうかとかって、ではそれを言ってみようかみたいな提案も、去年のグループの中ではありましたけれども、今年はグループにもよるのかもしれないですけど、とにかく選ぶ数が少な過ぎて、去年はまだ200件のうち……、200件か二百三、四十件、240件だったかな、そのうちの百五、六十件、半分以上は選べたと思うんですね。今年はもうそれどころじゃない。100件ぐらい……、100件ということはないか。5件とか6件しか選べないものもあって、本当にもう限られちゃっていて、何かもう、本当に選ぶのが難しいという感じだったと思います。

なので、駄目だったところに対する手紙というか、メールで、枠が少なくて入れなかったのというふうを書くべきという意見が出ていました。

以上ですが、何かネットがちょっと不安定ですが、大丈夫ですか。

【加藤】 ありがとうございます。

もう一つ、今、ワークショップと、それからメインセッション、それから後でちょっと話しますが、NRIあたりは決まりつつあるというか、大体見えてきているんですが、それ以外の何かセッションといいますか、そういうお話はあったのでしょうか。

【河内】 それ以外のものは、事務局が言うには、取りあえずワークショップを先に固めてから、それ以外の分を事務局で決めていくというふうに言っていて、ワークショップ80件で、あと、それからメインセッションが5枠、5件、それと、あと主にホスト国と事務局が中心になって決めるようなParliamentary Trackとか、そういうのも全部入れてですけれども、全部入れて300ぐらい枠があるらしいんですね、セッションがトータルで。なので、あと200ぐらいの枠は事務局が決めるということになるので、事務局って大変そうだなって、私、事務局じゃないのであれですけど。なので、残りの枠にどれを選んでどれにするかというのを、今、事務局が一生懸命やっているんじゃないかと思います。なので、そこはまだ作業中というようなことを言っていました。

【加藤】 あと200件ぐらいは、それじゃ、まだ見えていないということなんですか。

【河内】 そうですね、はい。

【加藤】 分かりました。

【河内】 全部で300ぐらいあるって聞きました。

【加藤】 それらは、いろんな人が参加して意見を言ったりできるような、そういうセッションになっていくんですか。ワークショップとは大分違う形式なんですかね。

【河内】 そうですね、ちょっと私、そこら辺、詳しくないんですけど.....。

【加藤】 チュートリアルとか、そういうのも入れてですか。

【河内】 そうだと思います。Youth TrackとかParliamentary Trackとか、何かいっぱいありますよね。あと.....。

【加藤】 Youth Trackはありますね。Parliamentary.....。

【河内】 とか、あと、何かいろいろありますよね。そうそう、Town Hallが重要、重要ってアダム・ピークが一生懸命言っていましたけど、あと、そこに載っているLightning TalksとかNetworking Sessions.....。

何ていうのかな、プレナリールームというんですかね、一番メインの部屋がありますよね。そのスケジュールはもう出ているんですね。というか、それは内々に我々だけに見せられているのか分からないですけど、例えばDay 0の何時から何時は、例えばですよ、Parliamentary Sessionだとかメインセッションだとか、そういうのの枠の配置というのはもう決まっています、メインの部屋だけですが、その予定はもらっています。それ.....。

【加藤】 今、映していただいているところに入って行くということですよ。

【河内】 いや、これは今、山崎さんが.....。

【加藤】 ええ、山崎さんに見せていただいているので。

【河内】 これはMAGのアジェンダなので、この間の会議のアジェンダなので。

【加藤】 あ、ごめんなさい、失礼しました。MAGのミーティングのですね。

【河内】 はい。

【加藤】 分かりました。じゃあ、もしそういうのも、これはもうMAGの相談とかはなく、いきなり事務局からこういうところに公表されるという感じになるんですね。

【河内】 そうだと思います。去年はなかったの。

【加藤】 分かりました。

ほか、皆さん、いかがですか。御質問、河内さんに対してございませんか。

【前村】 ちょっとくだらないことだったんですけども、前村ですけども、ホテルなんですけど、私と山崎は取ったんですけど、Booking.comとかそういうふうなサービスで、京都である期間でといふにやると、まあまあ、まだまだある感じに見えました。ということなので、ないと思って諦める必要はないからねというぐらいの情報なんですけど。

地下鉄の沿線で、我々、烏丸御池あたりのホテルになるんですけども、JPNICからフェローシップも少し募集しようとしていまして、彼らの一団とともに烏丸御池あたりのホテルになるんですが、まだまだあるように見えますので、皆さん、ただ、お早めに確保したほうがいいと思います。

【河内】 そうですね。期間が長いじゃないですか。1日、2日で帰っちゃう人とかだったらいいと思うんですけど、ずっといようと思うと5泊とか6泊とか必要なので.....。

【前村】 そうですね。

【河内】 そこが、何か細切れだったら取れるかもしれないですけどというのが……。まだ大丈夫かもしれないですけど。

【前村】 そうですね。今のうちだったら、何ですかね、土曜日入りして金曜出するような日程で押さえるわけなんですけど、それでもまだまだ、ちゃんと地図でマップさせるとば一つと出てくるので、今のうちなら取れます、皆さん。お早めにどうぞ。

【加藤】 じゃあ、取りあえずMAGの件について、河内さんへの御質問はこれでよろしいですか。どなたか、あれば……。

河内さん、前半で、あと後半はもう御退席ですよ。

【河内】 すみません、ちょっと6時ぐらいで。

【加藤】 もし御質問を後で思いつかれた方は、6時までによろしく願います。

ということで、飯田さんか岡崎さん、まだおいでになっていないでしょうかね。

【山崎】 まだいらっしゃっていないです。

【加藤】 そうですね。それであれば、次のアジェンダアイテムに移りたいと思います。

日本IGFタスクフォースの報告ということですが、これは前村さん、お願いできますか？それとも……。

【前村】 一通り私からお話をして、加藤さんもぜひとも補足していただければと思います。

【加藤】 いやいや、7月10日の御報告がメインだと思います。お願いいたします。

【前村】 運営委員会の開催を7月10日にいたしまして、そのときに何を話したかという、まずは4月、5月とやっていた提案提出に向けたプロモーションの振り返りと、あとは応募状況の振り返りみたいなことをやりまして、もう一つは、会員招請をどうしていこうかというような話をしました。

それで、少しこちらのほうは遅れてしまっていて、というのも私の不徳の致すところということなんですけれども、今から7、8、9月で、10月になったらもう本番だということで、どういったものを会員の皆さんに魅力に感じていただくかという観点で言うと、タスクフォースに加

入すると、政府に対して我々から具申といたりしますけれども、こういうふうにしたらいかがですかというふうな助言をすることの検討というところと併せて、IGFに関する、何でしょうね、フロントランナーの皆さんというのは、ここにお集まりのような皆さんだったりタスクフォースの皆さんだったりするんですけども、そういう方々からいろんな最新情報というのか、コアになるような情報が受けられて、よってIGF京都をより充実して楽しめる、より参加意義が高まるといふ形の訴求をしていくんだらうなということで、今、そういったところで呼びかけ文を作って、それを今週の金曜日に皆さんでたたいて、今月中には物を出せるようにしようというふうにしてやっていますというところが、最新の状況としては共有するところであります。

ほか、加藤さんや立石さんもいらっしゃいますけれども、何か補足があれば、どうぞよろしくお願ひします。

【加藤】 ありがとうございます。ちょっと私から、今、ノートを見ているんですが、まだ、今、岡崎さん、飯田さんがお出になっていないので、その関連の情報もちょっと付け加えておきますと、タスクフォースは岡崎さんがお出になっていただいて、先週、7月10日時点でのIGFの準備状況の御報告をいただきました。これもシェアさせていただいていいと思うんですが、さっきもちょっと山崎さんから見せていただいたように、公式の日本政府のIGF京都のウェブサイトが7月7日に立ち上がりましたと。各国から来る人々のビザの手續とか、その辺については今調整中だと。

ちょっと大きなニュースとして、ガラディナーがDay 0かDay 1か、まだ両方可能性があるという話で、Day 0になる可能性が結構あるというのが、先週の時点でそういう話がありました。それで、さっき、ガラディナーが最終的にどこに決まるかというのを伺ったんですが、先週の時点では、まだIGF側とも、ガラディナーの日程については、調整は済んでいないというようなお話がありました。

あと、国際戦略局の参事官として、新しく7月の人事異動で山路さんが異動されて、山路さんはIGFを昔から、データ通信課の課長だったときを含めてよく御存じで、協力メンバーを再構築されたというふうなお話がありました。

あともう一つ、サイドイベントの関連で、ちょっと後で私も確認したんですが、日経BPが定期的に行っているデジタル関連の1日のカンファレンスのようなものを、このIGFのときに、京都に合わせてやりたいというようなお話があるそうで、それをどう調整するかというような話がありました。そういうことをやりたいという話は、総務省のほうにも入っているということでした。

ただ、まだIGF側とか、どういう内容になるかというのは、私は存じ上げていないので、もしこのグループで御存じの方があれば、コメントいただければと思います。

大体そういうことが付け加えかなと思います。

山崎さんと、あと立石さん、追加があればお願いいたします。

【山崎】 立石さん、たしか御欠席だったような気がします。

【加藤】 そうだったですね。移動中だったですね、あのとき。

【立石】 そうです。また飛行機がずれてすみません。

【加藤】 そうですね。

【立石】 大変失礼いたしました。

【加藤】 山崎さんがもし追加があればという感じですね。

【山崎】 特にはないです。

【加藤】 もし御質問があれば、皆さん、いかがでしょうか。前村さん、私が参加させていた
だいた内容について。

堀田さん、お願いいたします。

【堀田】 どうもありがとうございます。いろいろ情報がアップされてよかったです。

これから会員が増えるというか、増やそうとする活動が具体的に動くということなんですけど、そのインセンティブというのが、前村さんから2つ出していただいたんですけど、政府に提言を出すというのは、何をどこに、何をこれから決めるのか。どこにどういうものを出そうという
ような話は、もうなされているんでしょうか。

【前村】 積極的にこういうものを出していくべきだというふうな話はないんですね。それで、その部分、提言を出すというあたりは、そもそもの設立主意書に書かれているものをそのまま引用したというふうな形でありまして、そういう状態です。なので、そこはもう少し明確にしていく営みが必要だろうなという感じはいたします。あと、もちろん総務省さんに御相談しながらということだと思います。

【堀田】 分かりました。特に何か会費が要るとかという話ではなさそうなので、何というんですかね、そういうところに名を連ねるといこと自体のインセンティブが一番大きいというふうに思って、社内説明をするという感じになるんですかね。これは感想ではあるんですけど、今のところはですね。

【前村】 ありがとうございます。名を連ねてみんなで盛り上げようぜというふうな感じのところ、結構大きいポイントになるのかなという感じがします。

【堀田】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかは御質問、いかがでしょうか。

もしよろしければ.....。

【堀田】 堀田です。

【加藤】 また挙げていただいていたんですね、失礼しました。

【堀田】 ちょっと全く別の話なんですけど、ドメイン名の入り口になるであろうigf2023.jpというのをもう半年以上押さえているんですが、これ、使う、使わないという話は特に議論されていない.....、使わないという感じなんですかね。

【山崎】 山崎ですけれども、使うとも使わないとも、まだ議論というか、結論は出ていなくて、私から振り出さなきゃいけないんですけど、まだタスクフォースのほうに対してそれができていないという状況です。なるべく早くやりたいと思います。ですから、使わないというふうに決まったわけではないです。

【堀田】 じゃあ、議論の俎上にすら乗っていない状態だと思えばいいですね。

【山崎】 はい。なるべく早く乗せないとは思っています。

【加藤】 すみません、山崎さん、先日、少しその辺のコメントがあって、例えば政府の総務省様が出されているウェブサイトは、そういう別のは使えなくて、ここの総務省のgo.jpでやらないといけないと、何かそういうルールがあるようなことを、ちょっと聞いたような気がしたんですが。

【山崎】 はい。それは例の省庁共通のルールで、タスクフォースの会合での岡崎さんからの御返事は、それが何かできない、ということでした。

【加藤】 そうですよ。

【山崎】 今、堀田さんがおっしゃっているのは、タスクフォースとして、民間でigf2023というドメインを使えるように……。

【加藤】 民間で使うということですか、これは。

【山崎】 はい。ただ、実際には、今映している総務省のサイトにリダイレクト、飛ばすというふうにしたかどうかという話を提案しようと思っています。

【加藤】 ああ、失礼しました。

【山崎】 総務省さんからは、ルールを破らず、ただ、参加者で、去年がigf2022.etだったから今年がigf2023.jpだろうと思ってアクセスしてくる方々の、便宜を図れば良いなと思っているんですね。岡崎さんのほうには、総務省的にそうして問題ないですかとかいうあたりを御質問して返事を待っているんですけど、まだその返事がいただけていないために、タスクフォースのほうにはまだ提案ができない、そういう状況です。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。それって、画面や内容はどういうものにするんですか、そこは。

【山崎】 いや、何もなくて、そのドメイン名を打ち込んだら、即総務省のページに飛ばすというものです。

【加藤】 ああ、そういう内容なんですか。

【山崎】 はい。

【加藤】 ということは、IGFの事務局に何か許可を取る……。

【山崎】 それで決まったわけではないです。その辺は異論が出るかもしれないですけども、今のところ私が考えているのは、そういうふうに即ここへ飛ばしたほうが、利便性としてはいいんじゃないかなと思っているということですね。

【加藤】 分かりました。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 堀田です。山崎さん、どうもありがとうございます。私どもが考えているのもその程度のもので、タスクフォースとして何かコンテンツを持たなきゃとかというのは、意外と大変だなというのと、あとは、タスクフォース自体が持っていましたよね、タスクフォースとしてのサイトは。さっきの提言とかをやるのであればそっちに載せるのでやって、igf2023.jpではないと思っているので、単なるリダイレクトでいいのかなというふうに私自身は思っています。

あとは山崎さんがおっしゃったように、go.jpの下のURLがとても難しいので、それを少なくとも打たせるのは無理で、検索からしか行けないというよりは、それっぽいigf2023.jpと打てば飛べるぐらいの感じの入り口もあったほうがいいんだろうなと思っています。山崎さんと同じように思っていますということです。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

じゃあ、それは、総務省のほうでもそれでいいですかという確認と、あとIGFの事務局は、特に断る必要はないんですかね、そういうのは。

【山崎】 総務省さんが、確認したほうがいいということをおっしゃるのであれば.....。

【加藤】 聞くという感じですかね。

【山崎】 ホスト国まではわざわざ確認は、今のところ必要ないんじゃないかとは思っていますが.....。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 そこは岡崎さんに確認してみます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかは御質問、御意見、ありますでしょうか。

もしなければ、まだ.....。先ほど西潟様のお名前をちょっと拝見したんですが、西潟様から、政府としてということでも、何かコメント等をいただくことはありますか。飯田様とか岡崎様が今御出席じゃないので、日本政府からの御報告というのは何もまだいただけていないものですから、もし何かお話があればと思ひまして、よろしくをお願いします。

【西潟】 西潟です。聞こえますか。何かちょっと今日、不安定みたいなので、申し訳ないですけど。

【加藤】 いや、聞こえております。

【西潟】 ありがとうございます。飯田、岡崎に代わって報告できるものは我々は持っていないので、そういう立場上、ダブルでここに出席させていただいているということになっているので、御期待に沿えずに申し訳ないですけど、待つしかないです。我々も彼らが今、何やっているか全く知り得る立場にないのですみません。

【加藤】 そうでなくても、西潟様から何かコメントとかがあればですけど、なければ……。

【西潟】 今までの議題のところまでについては、ないです。

【加藤】 分かりました。

じゃあ、次の議題に移らせていただきたいと思います。

NRIに関してですけれども、これは山崎さんをお願いしていいですかね、6月26日の件は。

【山崎】 はい。NRIミーティングというのは、要はIGF事務局と各国、もしくは各地域のNRIのコーディネーターの方が集まってという会議でした。一番最近では6月26日に開催しています。主に、先ほど出たメインセッションとは別にNRIのメインセッションというのがありまして、NRIのセッションが4つと、このメインセッションと合計5つ、セッションが開催されるんですけれども……。

【加藤】 3つプラス1つじゃなかったですか。

【山崎】 3つプラスですか。

【加藤】 ええ。

【山崎】 そのメインセッションについて、主に方針に関する質問として、ポリシークエストですね、議論の中でどういう質問をするかというあたり、それから、会議の形式ですね、モデレーターと司会者と、あと遠隔のモデレーターで、メインの専門家としては、内容に関する専門知識を持っていることということで、データガバナンスが主な内容ですので、それに関してAIの影響とかも入れたらどうかということなんですけれども、全部でセッションは90分ですので、A

Iを入れちゃうと、ちょっと入り切らないんじゃないかと。そういう意味では、AIを取り上げた、NRIではないメインセッションが設けられるのではないかとという観測も示されておりました。

あと、セッションのモデレーターを誰が務めるかということで、募集をして、どこかのNRIが手を挙げてくれというふうに来ておりました。過去、どういう方々がモデレーターをされたかというのが列挙されていまして、大体はMAGの議長ですとかMAGのメンバーとか、そういう方々が多かったようです。去年のエチオピアでは、1つ前のMAG議長ですかね、アンリエット・エスターフィセン氏がモデレーターを務められて、アルゼンチンのオルガー・バージェ氏がオンラインモデレーターを務められたということです。

そんな感じです。河内さん、出席なさったと思いますけど、もし補足があればよろしくお願ひします。

【河内】 いえ、大丈夫です。ちなみに去年、私、結局エチオピアへ行かなかったのだけれんですけど、NRIの個人情報保護のセッションの現地のモデレーターをやってくれないかと頼まれたのって、あれって、この現地のモデレーターのことですよ。何か質問になっちゃってあれなんですけど。分からないですか。

【山崎】 大体どのセッションも、セッション全体のモデレーターと、あとオンラインで質問してくる人に対応するオンラインモデレーターと、2名必要だというふうになっていますので、それだと思いますね。

【河内】 そうでしたね。すみません。去年、私がやるはずで、やれなかったやつかなと思ひながら聞いていたということでした。

以上です。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございました。すみません、私、このとき欠席しちゃったのであれですけど、メインセッションのほうもかなり、今言われたとおり、データガバナンスが中心になるんですかね。AIは入らないんですね。

【山崎】 あまり割合としては多くできないということのようでした。

【加藤】 3つのコラボレーティブセッションの中に、1つがAIとエマージングテクノロジーというのがあって、私、そちらのほうは、先日の会議も出たんですけども、そちらのほうでは、もうテーマをいろいろ広げるんじゃなくて、例えばエマージングテクノロジーでクオンタムコンピューティングなんかも議論したいとか、いろいろほかの議論もあったんですが、あまり広げな

いで、AI中心に、生成AIの今、世の中で行われている議論を中心にやったらどうかというような方向になっているんじゃないか思います。そういう意味で、AIは、NRIとしてはそっちのほうでカバーすると。

コラボレーティブセッションというのも、メインセッションと同じく3つありますけれども、それぞれ90分なんですよね。だから、時間は結構それで取れるということで、進んでいくんじゃないかと思えます。

その関係で、今、西潟様、お出になっていただいているんですが、IGFの中でPolicy Network on AIというのが去年から立ち上がって、AI関連でいろんな人がディスカッションして、こういうセッションにも意見を述べていくような、そういう場ができていて、西潟さん、何かコメントをいただけますかね、これ。今日の夜.....。

【西潟】 今日初めて参加するものなので何とも言えないところです。

【加藤】 初会合なんですけど、西潟様が、実はエキスパートとしてこれに御参加いただくということで、今日、夜、御参加いただいて、もうプログラムには西潟様から日本のホストカントリーとして、最初、何かリマークがあるというような案内が出て.....。

【西潟】 そう、5分はもらっているんですけど、たかだか5分なので、あまり時間食ってもしようがないので、こんにちは、プラスアルファぐらいの話でしかない予定なんです。先ほど御紹介がありましたが、NRIのメインセッションの中にAIは入らないようですし、この会議がどこに行くのかというのはよく分からないのが現状でして、イベントをホストしている政府としては、その辺も見極めていく必要があります。

片やレポートは出すとのことですけど、IGFなので率直に言うとそのレポートを誰が読んでくれるのかという疑問もあります。もちろんプロモーションはするんですけど、どこまでリーチがあるのかみたいな話を直接は追求しない団体だと認識しています。

他方、ユネスコは近いところが一部あるかもしれないですが、グローバルサウスの視点とか、G7とは違う視点の議論についてもいろいろ書いてあるので、私、自らエキスパートというのもちょっと、少なくともここに書いていただいているデータ通信課長としては微妙なんだけれども、OECDで人工知能の仕事をやっていたし、OECDが理事会勧告をつくった時の当事者の一人でもあるので、そういった部分から、ここの議論にどう貢献できるかという意味では、非常に私自身も楽しみな半分、それこそマルチステークホルダーの中で貢献してまいりたいとしか言いようがないところです。いずれにしても、次回には何かしらの御報告が

できることがあれば、このPolicy Network on AIとしてもいいことなのかなというぐらいな感じで受け止めています。

【加藤】 もしよろしければ、こんなようなことを、日本政府というか日本としても、AIについて主張していくみたいなの、何かお持ちなんですかね。

【西潟】 それは実際の具体的な議論を見ないと分からないです。ここ何回かの会合のサマリー等を一通り読みましたけど、すごいことが書いてあるわけではないので、やっぱりちょっと中身を見ないと分からないところです。他方、G7の議長国としては、AIの議論について今年是非常に大きな進展があった部分もあるので、そういったことは押しつけにならない範囲で紹介していきたいと思っています。

OECDの理事会勧告に帰れば、最初にできたものだからというのがあるんですけど、どっちかというところプライバシーだったりトランスパレンシーだったりアカウンタビリティだったりというほうの議論、あるいはセイフティー、セキュリティの話もそうですけど、そっちのほうに、どうしてもプリンシプルベースのほうに議論が寄りがちなところがありますが、そういった部分も紹介できればと思っています。むしろOECDの現役の作業部会の副議長としては、この部分については喜んで提供いたしたいと思っています。

あとは、まさに今日から私も参加させてもらうPolicy Network on AIの議論の場の中で、例えば生成系AIみたいなものがどういうふう位置づけられているのか、その辺の彼らの温度感や、どうアプローチしていくのか。インターオペラビリティについても章立てしようとしているんですけど、インターオペラビリティって実はG7でも日本から打ち出していますけど、既存のワークがないのが実態で、彼らがどう進めていくのかということも気になっています。彼らが、私も含めれば私たちという言い方になるんでしょうけど、フロンティアまで上がれるのかどうか、あるいは議論するだけで終わっちゃうのか、そういったところもいろいろあるし、IGFですから、発案は発案で、その発案したことのログを残せばそれはそれで意義があったことになる部分もあるんだと思っていますけれども、そういったのも含めて、ちょっと今日は、私から申し上げることはそんなになくて、むしろしっかり状況を把握させていただきたいというところが、率直なところだと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。

御質問ございますでしょうか。NRI、もしくはこのPolicy Network on AI、PNAIに関して、西潟様への御質問とかございませんか。

【実積】 すみません、実積ですけど。

【加藤】 はい。

【実積】 西潟君に質問なんですけど、このPolicy Network on AIでの議論と、国内での総務省とか、あとはAI戦略会議の議論との関係というのは、今後どういうふうに進むことになるんでしょうか。

【西潟】 率直に申し上げると分かりません。中身を見てみないと分からないというのが、第一のお答えになるかと思います。

【実積】 お互いそういうのがあるという情報は知った上で、動いているという理解でいいんですよね、少なくとも。

【西潟】 その意味では、戦略会議のほうは知りません。

【実積】 了解しました。了解しちゃいけないんだろうけど、了解しました。

【西潟】 というか、了解をいただくかどうかはさておくとして、少なくとも私はその担当者ではないという意味で申し上げているだけです。

【加藤】 実積先生、よろしいでしょうか。

【実積】 特に大丈夫です。ありがとうございます。

【加藤】 ほかは御質問ございますか。

もしなければ、NRIについてはこれで終わりにして、次の.....。

【西潟】 一応、すみません。実積さんとの会話は、この2人の間はこれで通じていると理解しているんですけど、ほかの方が違ったら申し訳ないので、補足しますが、PNAIの議論、私が出席するのは今夜が初めてで、少なくともペーパーは全部インターネットに出ていますけど、あれを読む限り、何をやっているかというのは率直に言ってよく分からないんですね。その意味で、今回、日本時間の今夜ですけれども、会合に出てみて、例えば実積先生から御指摘のあった、政府のAI戦略会議にレポートするに値するものかどうかということすら、私も判断できていないんです。

他方で、データ通信課でIGFを見させていただいている延長で、私の属人的な部分もあり、今回、PNAIは参加をさせていただくということに相なりましたけれども、私からすれば、半分はIG

Fの話だし半分はAIの話で、これは中の議論として、例えばG7とIGFのメンバーシップの幅がだいぶ違いますので、その中で参考になるものがあるのかどうか、あるいは、さらに言うと参考にするべきなのかという点も含め、どういう議論がされているのかも見極めた上で、という趣旨で申し上げていますので、端的に言うと、総務省の中で、私がAI戦略会議を直接担当していないのは事実なんだけれども、他方で、何も情報共有していないわけでももちろんございませんので、そういったところはもし誤解があるとまずいので、一応補足させていただく形でしゃべってしまいましたけれども、そういったことでございますので、御不安に思われた方がいたら、そういうことですので大丈夫ですということです。

【加藤】 ありがとうございます。

【前村】 前村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい。前村さん、お願いします。

【前村】 西潟さん、ありがとうございます。まさに何かそこはかたなく不安に思ったところをちゃんと塞いでいただいたというのか、御説明いただいたような感じがしていて、とてもありがとうございます。

Policy NetworkとIGFのインターセッショナルな動きというふうなもの、つまり、IGFに100%属しているものの議論というのが、何でしょうね、GPAIというふうにくくりつければいいのか分からないですけれども、政府で検討していることときちんとかみ合うみたいなことがあると、何かIGFにとってもいいことなんだろうなというふうな期待を持ってしまいましたけど、そういうふうな期待をできるかというのを、入って見てみないと分からないなど、そんな感じですかね、西潟さん。どうでしょう。

【西潟】 率直に申し上げてそういうことなんですよ。これはG7じゃないので.....。

【前村】 うん、そうですね。

【西潟】 いわゆる政府関係者の中でやっているのであれば、単純に枠が広いIGFと--広いというのは全世界から入れるという意味での--G7の中で違う部分と同じ部分というのはある程度、あるいはこういうこと、例えばグローバルサウスのガバメントの人たちは、こういうことを強くIGFを通じて言おうとしていますみたいな話があるのかどうかみたいな話はあるんです。他方、ここにいらっしゃっているメンバーの方々は重々御理解いただいている上で申し上げますけど、マルチステークホルダーという言葉にもいろいろありますので、確かにG7の成果文書の中でもマルチステークホルダーという言葉を使っていますが、コミュニティで--と言っているときのマルチ

ステークホルダーの意味と、IGFがガバナンスの体系として本当にトゥルーリーな意味で使っているマルチステークホルダーって大分違いますので、そんな中で、求められれば当然、私の立場からはG7の議論、あるいは個人の経験も含めてOECDの議論というのは喜んで紹介しますけれども、少なくとも今日の段階で何かをプッシュしていく立場にはないのかなという理解でいます。そんな中では、まさに参考とか報告とか……、ちょっと報告というのは、これは後で議事録のほう、私の意見を出しますが、どういうふうに政府の会議と関わっていくのかどうかの見極めが必要で、それはやっぱりIGFというフォーラムとGroup of Xというフォーラムの違い、あるいはOECD、ユネスコ、いろいろみんなそうだと思うんですけど、そういうところも含めて見ていかないといけないと思います。

まずは、せっかくの機会をいただきましたので参加させていただいて、その中で、私はIGFの事務局なり、既にお集まりの有識者の皆さんとの間で、どういうものが求められているのかとか、そういうところもちょっとお聞きした上でじゃないと、何とも言えないというのが率直なところでは。

【前村】 御丁寧にありがとうございました。よく分かりました。

【加藤】 ありがとうございました。

あと御質問、御意見ございますか。よろしいですか。

それじゃあ、次の、9月に予定されている国内の事前会合に関してなんですか、これはどうでしょうか。堀田さん、お出になっていただいているので、堀田さんからでもいいですが。

【堀田】 堀田ですが、これは特に開かれていないですよ、ここ1か月は。

【加藤】 はい。前回以降、まだ変化がないということだと思います。

【堀田】 さっき河内さんから、最後のワークショップの絞り込みで、まだ公表できる段階にないとおっしゃっていたので、それが公表されたら、日本に関連するような、合格したやつを選んで、その中で何本か、国内事前会合で議論の対象にするという方向で、今、少なくとも今日時点ではまだ待ちだというふうに思っています。1週間ぐらいすると動けるのかなというスケジュール感ですね。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味で、高松さんもお出になっているからあれですけれども、有志で参加していただいている方々が、これがMAGの公表があると速やかに一度会

合を開いて、プログラムのイメージを議論した上で、日程も最終決定をして、それで準備に入るという感じですね。それが早めに行われるのであれば、その結果をこのグループにもメーリングリストで、こんな状況ですというのを中間報告でも入れさせていただいたほうがいいのかなと思いますけど、いかがですかね、堀田さん。

【堀田】 それでよろしいかと思います。

【加藤】 はい。河内さんに、まだ公表はできないですけど、日本関係は入っている感じなんですかね。外枠で言うと、400件のうち20件ぐらい応募があったはずなんですけど、イエスカノーグぐらいだけで、フライングがない形をお願いします。言える程度で。

【河内】 20件って日本から20件ですか。

【加藤】 日本絡みでは20件近くあったと思うんですが。

【河内】 スピーカーで日本人の方が入っているやつを入れると、それぐらいあると思うんですけど、オーガナイザーが明らかに日本人のやつは、前村さんが作られたリストの中に4つ入っていたと思うんですけど、その4つは、実は2つしか通っていません。それで、もう一つ、そのリストになかったやつで、でも明らかに私が知っている方々のお名前が……、私、それ、担当のテーマじゃなかったの、スピーカーの名前しか分からなかったんですけど、スピーカーが日本人の方ばかりだったので、多分それも、日本人の多分このグループとかにいらっしゃる方がオーガナイザーになっているやつだと思うんですけど、それも入っていました。なので、私が知っている限りで、スピーカーとしてではなくてオーガナイザーとしてののは3つとかです。スピーカーで入っていらっしゃるだけなのは、全部チェックしていないので分からないんですけど。

【加藤】 ありがとうございます。大変ユーザフルな情報をありがとうございます。

堀田さん、それぐらいあれば、形になりそうですね。

【堀田】 そうですね。

【加藤】 十分な情報だと思います。フライングしないように。

【河内】 はい。

【加藤】 ありがとうございます。

では、改めてこれは、そういう進捗があったらこのグループに御報告をするということで、よろしいでしょうか。

それでは、この時点でまだ飯田様か岡崎様がお出になっていなければ、もし何か追加の情報があつたらまた議論させていただくということで、今日はこれでアジェンダの項目は全てカバーしたことになると思います。

何か追加で議論したいこととか御提案があれば、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【西潟】 加藤さん、1点いいですか。ちょっとまだ時間もあるみたいなので。

【加藤】 お願いいたします。

【西潟】 NRIの話なんですけど、私は行きがかり上AIをやらせていただくことになりましたけれども、それ以外のところというのは、逆に加藤さん、山崎さん、それから河内さんが入っていただく中で、何かハイジャックとまで言うと大げさですけど、それこそ政府じゃないお立場からでの日本の、今のあるところを、どの分野かにもよりますけれども、推していくみたいな部分というのは余地とか、あるいは意向みたいな、そういうのというのはどんな感じでいらっしゃるんですか。

ちょっと途中で、今日何か、手元の役所のWi-Fiの都合で切れたり切れなかったりばかりで、私が聞き逃していたらちょっと申し訳ないんですけど。

【加藤】 あと2つ、山崎さん、河内さん、いかがですか。セキュリティーとかほかの項目。ハイジャックできそうなイメージはありますか。

【河内】 河内ですけれども、ハイジャック、要するに何かモデレーターとかも名乗り出て、中身も自分たちというか、私たちが考えるような内容に持っていくような、そんな感じですか。途中ちょっと、ちゃんと聞いていなかったんですけど。

【西潟】 ごめんなさい。ハイジャック、リード、関与といろいろあるんですけど、先ほどお聞かせいただいた雰囲気からすると、このNRIの部分は、むしろせつかくこの活発化チームで議論してきたわけですから、もっと関与していかないのですか？巻き返すと言うと語弊があるかもしれないけど、あるいは変な方向に行かないという言い方もあるかもしれないですけど、いずれにしても、もっと日本からも関与していくような余地はないのでしょうか。

【河内】 ハイジャックは難しいかもしれないですけど、というか、スピーカーとかは、全部日本人とかにするわけには多分いかないと思うので、ただ、海外の方でマルチステークホルダーでグローバルな感じにできれば、あとは、何かシナリオというか筋書をうまくつくって、皆さんに納得してもらわないと駄目だとは思いますが、リードぐらいはできるんじゃないかなという気はしますが、マルチステークホルダーでしかもグローバルなスピーカーをそろえられるかどうかというところはあると思いますけど。

【加藤】 少なくともNRIのセッションに1人ぐらいは日本からも参加して、結構有力な発言をしていただくということは、ぜひ企画したいですね。このAIは少なくとも西潟さんがメインで参加していただけるので、そういうことを期待していますけれども、ほかの2つもしそういう可能性があれば、少しまたここに書き込むなり、次回そういう御提案をしていただくなり、いかがですかね。

【河内】 次回、27日にNRI全体の会合があると思うので……。

【加藤】 そうですね。

【河内】 ただ、全体の会合なので、テーマ別のやつのときにそういう話をしたほうがいいのかとか、個別にアーニャに聞くのがいいのかとか、ちょっとやり方を相談させていただければと思います。

【加藤】 分かりました。27日は、主にやっぱりまたメインセッションの議論かなと思っているんですけど。

【河内】 そうですかね。全体の会議ですよ。

【加藤】 はい。

【山崎】 アクセスのほうですけども、今にもう1回企画会議をやって、8月上旬には内容を固めたいということですね。内容がアクセスなので、途上国の方々が中心になると思いますので、ちょっと日本として議論をリードというところまでは行けるかどうか分からないですけども、まだ内容をアップデートしたのを見られていないんですが、ちょっとそこを確認して、関わる余地があるかどうか確認してみます。

【加藤】 西潟さん、そんな感じでよろしいでしょうか。

【西潟】 ありがとうございます。

【加藤】 何かアクセスもちょっと見方を変えて、途上国が見つないでくれとかと言うだけじゃなくて、日本型の成功モデルを説明するみたいな部分も、ちょっとあってもいいような気もするんですけどね。山崎さん、もしアップデートが今後あればお願いいたします。

【山崎】 はい、分かりました。

【加藤】 ありがとうございます。

ほか何か、別件でも何でも結構ですが、ございますか。

もしなければ、次回の会合の日程なんですけれども、実は今日の会合は1週間、もともと先週の月曜日にやる予定だったのが、いろんな方のスケジュール等の理由で今日に延ばしたという経緯があって、そのときに、私の記憶が正しければ、今回は4週間後じゃなくて3週間後に、元のスケジュールでやりましょうという御提案というか、お話をしたと思うんですね。ここに候補日時、8月7日、14日、21日と書いていただいていますけれども、ちょっと私、さっきからカレンダーを見ているんですが、もし日本会合を9月の6、7、8のあたりで前に話したとおりにやるとすると、その前に、次回ともう1回、9月の例えば4日にやれるというタイミングを考えると、8月7日と9月の4日を今から計画するのはどうかなと思うんですが、いかがですか。

もし異議なければ、よろしいですか。恐らく日本IGFの会合を9月の第1週にやるとすると、その近いところでもう1回、次の会議が必要になると思うんですね。実はその前の週が、APrIGFがオーストラリアであるので、その前の週に入れるのが少し難しくなるなと思ひまして、9月の6、7、8の前にやるとすると、予定どおり8月7日の後、4週間後の9月4日というのはどうかなということなんです。

高松さんから今、9月の4日の週にということで、6、7、8の頃じゃないかというふうに私は理解していたんですけども、日本IGFは。今のまま準備が進めばですね。その直前に、9月の4日にこの活発化チームの会議をやるという提案ですが、いかがでしょうか。

もし、少し準備のために早めにとるのであれば、その前でもいいですけども、APrIGFで出張する人は、ちょっと現地での予定が……。時差はあまりオーストラリアだとないのであれですけども、参加できるかというのもあるかと思いますが。

高松さんお願いします。

【高松】 すみません。プログラムを1回ぐらい活発化チームで議論をするのかなとか、ちょっとそういった想像もしていたので、何かアナウンスと人の集まりとだと考えると、8月7日だ

と、プログラムはその頃、できているんだろうかというのがちょっと見えないなと思ったというのと、集客が足りないとか、そういった話になるのであれば、多分9月4日だと、話すのが間に合わなさ過ぎるのかなと思って、8月21日とかで話をして、今、申込み人数がこのぐらいで、もう少しイベントに参加いただくように、ちょっと力入れて声をかけていくのはどこがいいんだろうとか、そういった話をするのがよいのかなと思ったという……。

【加藤】 分かりました。そうすると、8月7日はやめて21日という感じですか。それとも、7日もやって21日という感じですか。

【高松】 私の個人的な感覚では両方……。メーリングリストの議論とかで話がまとまっていれば、8月21日だけでもいいとかになる気がするんですけども、ちょっとそれが厳しそうであれば、7と21、両方しないと厳しいんじゃないかなという気がしておりますというので、7と21両方かなと、今時点では私は思います。

【加藤】 プログラム委員会じゃないんですけど、有志の6人の委員会の会議は別にやるとして、それ以外に、この活発化チーム全体会議も、この2つあったほうが良いという御意見ですね。

【高松】 はい。

【加藤】 分かりました。それで、その場合は、先ほどの9月の4日はもうやらないという感じでしょうかね。

【高松】 そうですね、21でまとまっているようであれば、別に4日は要らないかなと思います。

【加藤】 分かりました。私、その日、オーストラリアにいるので、うまくできるかどうか若干……、絶対大丈夫ですとは言えないですが、努力してみますけれども、21日ですね。

【山崎】 APrIGFは28からじゃなかったですか。

【加藤】 あ、ごめんなさい、失礼しました。28でした。21はいます、日本に。大丈夫です。どこかと混乱しちゃいました。うそですね、21日は大丈夫です。

もし皆さんがよろしければ、そういうことで今日決めてしまいませんか。7日はどちらにしてもやると。21日開催ということでもよろしいですか。ほかに御意見ありますか、皆さん。

少し時間を空けるという意味で、21じゃなくて、例えば24とか25にするという手もありますけれども、21でもよろしいですかね。

特にも御返事がないということは御異議なしということで、じゃあ、高松さんの御提案どおり、8月7日と21日の両方開催ということで、それだけ時間があれば、9月の6、7、8の頃に向けて、かなり最後の調整とかの時間が取れると思いますので、じゃあ、8月7日と21日ということで決めさせていただきたいと思います。

繰り返しになりますが、何か今日ぜひ話をしたいということは、もうほかにございませんでしょうか。

じゃあ、もしなければ、今日は早く終われて、大変御協力ありがとうございました。

じゃあ、次回.....。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 今日には特に何も決めていないので、ToDoはないということによろしいのでしょうか。

【加藤】 はい、そう思います。9月の日本IGFの会議の準備の有志の方々は、その間にMAGの決定が公表されたら、直ちにミーティングをやっていろいろな準備をするというのが、ToDoではあると思います。それ以外は、今日の内容を受けてのToDoはないと思いますね。

皆さん、それでは、今日も会議、ありがとうございました。

これで終了したいと思います。ありがとうございました。